

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

111号

2009年8月20日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション行政訴訟 第3回口頭弁論のお知らせ

8月27日(木) 11時00分
於 522号法廷(東京地裁)

いま双方の弁護士間で準備書面や反論のやり取りが行われています。

全国各地で起きている建築紛争は、建築基準法や開発計画の見直し運動に発展しています。

にも拘らず、売れもしないマンションは依然として建築が続いています。この建築行政の失敗のつけは必ず近い将来やって来るでしょう。その時誰が責任を取るのでしょうか。必ず取らせたいものです。

藤和マンション問題も、完成している建物を見ると虚しい限りですが、常盤台の住民が諦めないで抗議し続けていることが、他の住民を勇気付けているし、実際に世の中が変わりつつあるのではないかと弁護士さんからは励まされています。

今回も多数の傍聴を宜しくお願いします。

○ 上野 泰 “あかり展” in ときわ台

10月2日(金)～10月4日(日)
午後4:00～7:00

練馬区向山で、まちづくりに取り組んでいる上野泰さんは、インテリアデザイナーとしても有名です。

この度、常盤台でも個展を開いていただくことになりました。会場は1丁目のSさん宅の予定です。詳細は次号で。ご期待下さい。

○ バザーのお知らせ

8月30日(日) 10時～3時

いつもの一・二丁目町会事務所の前でバザーをします。選挙の行き帰りにお立ち寄り下さい。

提供品は前日の8月29日(土) 1～3時にお持ちより下さい。衣料品は新品かそれに近いものをお願いします。

○ 街路樹は要らない?!

常盤台の1丁目と2丁目を分けるバス通りは、夏の間自然と避けてしまう道です。なぜなら真南に向かう道なので、もろに暑い太陽光をあびるからです。並木として百日紅が植えられていますが、なぜかいつまでも貧弱で、このギリギリした光線を少しもさえぎってはくれません。ちょっと遠回りでもプラタナスの木陰がやさしいプロムナードを選んでしまいます。

某「まちづくり講座」に参加していた学生の一人が「僕たち昼間は学校やアルバイトに行っているし、朝出て夕方や夜帰るだけだから、街路樹とか緑が大切って言われても関係ないですから」と言うのです。良い住宅地とは、自然をいかに上手に取り込むかによって決まるということを知らないのでしょうか。何よりも自分に関係があるかないかで物事の尺度を決め、自分がいつかは木陰の必要性を痛感する老年になることや、自分以外の人々のライフスタイルに対する想像力の欠如に呆然としてしまいました。

CO2削減とか酸素供給などの問題は言わずもがなのこと、小さな町レベルでも、緑の減少は大問題です。住民も行政も安易に木を切らないで!常盤台の良さがどこにあるのかを考えて!と言いたいのですが・・・。

「東武鉄道百年史」によると、「ごく初めの頃は、東上線の池袋から成増までに、「常盤台」駅（旧名武蔵常盤）がなかったのはもちろんのこと、「上板橋」駅と「下板橋」駅しかなかったのだ。池袋から坂戸町までの駅は

池袋—下板橋—上板橋—成増—膝折—志木—綾瀬—上福岡—新河岸—川越西町—川越町—的場—坂戸町 となっている。

「中板橋」駅は、遊泉苑という石神井川沿いに作られたプールの利用のため、夏季だけに設けられた臨時駅だったのが定着したもの。「武蔵常盤」駅はご存知のとおり、昭和十年に常盤台分譲のために開設されたのだ。その後「常盤台」と改称、表記も「ときわ台」となった。

「中板橋」駅と「常盤台」駅は直線で結ばれ、距離も近いので、ホームの端で友達同士が見えるかなあと手を振り合ったなどということは今でも子供がしている遊びかもしれない。

かつては今の「大山」駅と「下板橋」駅との間の陸橋のあたりに、「金井窪」(昭和六年開設)という駅があった。また、現「北池袋」駅は昭和二六年にできた比較的新しい駅なのだが、それ以前には「東武堀之内」(昭和九年開設)という駅があった。どちらも昭和二十年四・五月に戦火によって消失し、戦後それぞれ「大山」駅・「北池袋」駅として復興したのである。

「金井窪」「東武堀之内」、この二つの駅名を知っている人は、七十以上の方であろう。

疑問だらけの世の中

タカラレーベンの民事訴訟と藤和マンションの行政訴訟と、常盤台住民はこの数年間で二つもマンション紛争を経験している。

既に藤和マンションも完成してしまっただが、行政訴訟は始まったばかり。何故こんなに時間がかかるかといえば、前置主義という制度があるのも一因だ。裁判所に訴える前に、建築審査会や開発審査会の審議を経なければならぬことになっている。お手盛り人事の審査員？が下す裁決を何ヶ月も待たねば進まない。いわば建物を完成させるための引き伸ばし制度ではないだろうか。

小泉改革（何を改革したのだろうか？）の功罪を問うなら、罪の方の典型は建築の規制緩和だった。際限なく緩和され、ディベロッパに有利に運用解釈される建築基準法が大手をふるい、いたるところで醜いコンクリートの塊が出来上がってしまった。日赤跡地・玉川学園・青葉台三丁目・二子玉川・澁谷鷺谷・・・日本は「観光立国」を目指すのではなかったか？

住民訴訟がこんなに多い国は、いわば無法国家に近いのではないか。まともな国ならとづくに何か賢明な対策を立てていた筈だ。

一方では裁判員制度が始まり、耳目を集めているが、なぜ殺人のような事件から始めるのだろうか。こういう行政訴訟のような人の生命とは無関係の分野から始めればよいのに。

疑問だらけの世の中、はたして今度の選挙で少しは変わるだろうか。

常盤台公園の花づくり

Nさんがドングリやコナラの実から苗を作りました。植えたい方に差し上げたいとのこと。ただ、大きくなる木なので、植え場所はよく考えて下さい。

先日お知らせしたTさんの着生蘭は、数人から希望があり、いくつかは公園の木に付けました。来年五、六月ごろ樹の上を注意して見て下さい。ピクニックの可愛い花が咲いているはず。シンガポールの街路樹は、どの木にも見事な着生ランが咲いているとか。

今図書館のそばで咲いている紫色の合弁花を、アサギリソウと間違えていたことを以前に書きました。本当はシホウカまたはシホウゲとその時書いたのですが、その後インターネットで調べると、どうも「柳葉ルイソウ」のようです。ルイソウの漢字は不明ですが、外来種のような名前です。どうかご存知でしたら教えて下さい。楚々とした花の割には丈夫で、挿し木もできそうですし、芝生の中ではこぼれ種が芽を出しています。

定例会 九月十二日(土) 七時

一・二丁目町会事務所

踏み切り際にどんどん高いマンションが立ち上がって行きます。日照被害・風害も出ていますが、規制緩和された建築基準法のもとでは、法的には問題がないとされてしまうのが現状です。

* どうしてこんなに時間がかかるのか

私達もタカラレーベンの民事訴訟で懲っていたのですが、どんな手段を使っても、建築業者の利益は最大限守られるように法律はできています。そこには都市計画的な調和や景観や環境といった高次なもの見方は全く捨て去られています。

また、前置主義と言って、訴訟に踏み込む前に、開発審査会や建築審査会の審査を経なければ生らない仕組みになっているのです。審査員は行政庁の任命制です。中には住民側に立った裁決も出ますが、圧倒的に行政側に有利な裁決が出されています。それに何ヶ月もかかり、その間、建物はどんどん建ってしまうのです。

裁判になってからも、裁判所・被告側弁護士・原告側弁護士の日程が揃わなければ法廷は開かれません。慎重にやって欲しいと同時に、なんとか早められないのか、じりじりする思いです。

* 「景観ガイドライン」は有効ではないのか

残念ながらこの街にガイドラインが施行される直前に建築確認されています。板橋区もガイドライン成立を知りながら、開発にからんで業者に有利に許可を下ろしました。それで行政不服訴訟にしたのです。

* 踏み切り際の交通状態から、警察が待ったをかけないのか

警察の許可はあきれたものでした。

* 今後はどうになってしまうのか

* 区は何もしないのか

*

モデルルームが隣の上板橋にできたのも、反対が強いのをはばかってのことでしょう。

